



なが おまこと

第16回 2000年度 高柳記念賞

長尾 真 氏

「画像および言語の知的情報処理に関する研究業績」

長尾 真氏は、京都大学教授として、画像および言語を用いた知的な情報処理という新たな研究領域を開拓され、世界に先駆けて多くの独創的なアイデアを提案されるとともに、パターン認識、画像処理、自然言語処理、機械翻訳、電子図書館の分野において優れた研究成果を挙げられた。

知的な画像処理の方法として先生が提案された、フィードバック解析機構を導入した顔写真の認識システムや黒板モデルを用いた複雑な航空写真の解析システムは、人工知能的手法による画像処理の分野を開拓したのものとして国際的に大きな影響を与えました。

自然言語処理の分野では、日本語の形態素解析法、構文解析法、重要語抽出法、電子辞書などの研究を行われ、現在日常的に使われている日本語ワープロや文献探索システムなどの文書処理システムの基礎を築かれました。

機械翻訳の分野では、昭和 57 年から 4 年間科学技術庁の機械翻訳プロジェクトを推進され、科学技術論文抄録の日英および英日機械翻訳システムを完成させるとともに、アナロジーによる機械翻訳という新たな翻訳方式を提案され、世界的な注目を集められました。

最近ではパターン認識、画像処理、自然言語処理、機械翻訳研究で得られた成果の上に立ち、マルチメディア情報処理、デジタル通信機能を包含した総合的情報処理システム研究として電子図書館研究を行われ *Ariadne* と称する電子図書館システムを開発されました。このシステムは、21 世紀における図書館の在り方を示すものとして各界に大きな影響を与えています。

こうした自らの研究に加えて、先生は、国際パターン認識連盟副会長、日本機械翻訳協会会長、アジア太平洋機械翻訳協会会長、機械翻訳国際連盟会長、電子情報通信学会会長、言語処理学会会長、情報処理学会会長、認知科学会会長などを歴任されるとともに、*Computer Vision, Graphics, and Image Processing*, *IEEE Transactions on Pattern Analysis and Machine Intelligence*, *Pattern Recognition Letters*, *Artificial Intelligence Signal Processing* など多くの国際学術誌の編集委員を務められ、国内および国際的な学術研究学会の発展にも尽力されてきました。

経歴	昭和 11 年 10 月 4 日生
学歴	昭和 34 年 3 月 京都大学 工学部 電子工学科卒業
	昭和 36 年 3 月 同大学 工学研究科修士課程修了
職歴	昭和 36 年 4 月 京都大学 助手に採用
	昭和 41 年 工学博士
	昭和 43 年 11 月 京都大学 助教授
	昭和 44 年 9 月 フランス・グルノーブル大学 客員助教授(1 年)
	昭和 48 年 10 月 京都大学 教授
	昭和 51 年 2 月 国立民族学博物館 併任教授
	昭和 61 年 4 月 京都大学 大型計算機センター長
	平成 9 年 4 月 京都大学 大学院 工学研究科長
	平成 9 年 12 月 京都大学 総長に就任
	現在に至る